

新幹線アナウンスにみる日本人の変なクセ

三原市城町／内科 小園 亮次

最近、新幹線の車掌さんのアナウンスにナマ英語がはいるようになりました。以前、英語は録音だけだったのですが、外国人観光客が増えてきたこともあって、これじゃいかんということになってきたのでしょう。しかし、日本語のアナウンスでは熟練の名調子を發揮する車掌さんも英語となると、イヤイヤ感がアリアリで、まあむしろほほえましいといってもいいくらいです。ナマ英語初期においては高校生が教室で朗読させられているみたいな長セリフが聞けたのですが、日を追うごとにこれがどんどん短縮されていきます。皆さん、足並みをそろえて。そして、その最終型が以下のものです。

「アテンションプリーズ。ザ ドア オ
ブ レフト（ライト）サイド ウイル
オープン」

思わず心の中で、「(ドアなら) どちらでもあいたほうから降りるわ! まず、どこに止まるか言え!」とツツコンでしまいます。日本語で自由席が何号車だの、喫煙できないとか、降りるときイスを戻せとか、不審な荷物があったら知らせるとか、うるさいほど言った後、英語はつけたしみたいにどっちのドアが開くのかだけ言うわけです。せめて駅名くらいは言うべきです。外人向けに始まったはずの取り組みが、なんでこんなところに着地してしまうのか全くわけがわかりません。だいたいアテンションプリーズなんて、昭和の

日本人の勘違い英語の代表ではないでしょうか(紀比呂子がでていたスチュワーデスドラマが思い起こされる。スチュワーデスも死語だ。)

こういったヘンテコなアナウンス、日本以外の非英語圏でもみられるのだろうか?? たぶん、よその国ではこんな変な風には仕上がらないんじゃないかと私は思います。やはり、日本人もうちょっと国際感覚を磨かなければ、というのはとりあえずの結論でしょう。しかし、それに加えてヘンなのは、このアナウンスをなぜみんなで踏襲してしまうのかという点です。「みんなと同じならいいや」とばかりに考えもなく妙な落としどころに集団で陥ってしまうのも日本人のヘンなクセなのではないかと思われます。

そんな、わがニッポンなのですが最近、といっても東京オリンピック開催が決まったころからか、テレビでは「日本ってすごい!」という番組が増えてきて日本人のプライドをととても心地よく刺激してくれています。しかし、私はなぜかそこに日本凋落の兆しのようなものが見え隠れしているようでやや心配です。「人は自分の聞きたいことだけを聞く」とはジュリアス・シーザーの名言で、その手の番組だけではなく日本で喧伝されているいろんな情報って、日本人が聞きたくないところは全部カットして作られているみたいなのです。なぜそれがわかる? 例えば、去年の

5月、ニューズウィーク日本版で「そんなに
すごくない日本」という特集が組まれていま
す。外人タレントは日本賛美の番組に対し「日
本それほどでもないよ」と喉元まで出かかっ
ても、絶対に言えないというか言わない人だ
けが生き残るのです。日本での芸人歴20年、
ハーバード大学卒業のバックンも日本のお笑
い、ひいては言論界についてこう言います。
「日本には風刺ネタ（権力批判・スポンサー
批判をふくむ）がほとんど出てこない。なぜ
だろう？ それは目に見えない一線を越えた
ときの制裁が、目に見えるからだ。企業が怒
ると広告が消える。政治家が怒ると、同じ政
党の政治家も取材に对应できないことがある。こ
の仕返しは当の番組だけでなく、その放送局
の全番組まで対象になり得る。」ううん。鋭い。

現実の日本ってまずおそろしいほど少子高
齢化で、人口が減っている。でも人口を増や
す政策を本気とする気はないんじゃないのか
なあ（関口 宏風ですなこの言い方）。外国人
移民を入れるか入れないか、議論になってい
ますが「日本は純血主義でいく」論がわりと
大きな勢力を持っています。しかし世界的な
投資家で世界の出来事を次々と予言してきた
ジム・ロジャースは「外国人に門戸を閉ざし

た国は必ず滅びる。世界史をみれば明白であ
る」といっていて、なるほど目からウロコの
納得です。明治維新も結局、開国政策だった
のですから。そう、もっと外向きになりましょ
う。そういえば医学会でも「内向き」がみら
れます。外国に留学したいという若い医師は
目に見えて減っています。国家の予算配分
における研究費にあまり重点を置いていなさ
そうなもの心配。本庶 佑先生は日本の研究環
境を憂いて孤軍奮闘されています。私も陰な
がら応援しております。

ということで妙な新幹線のアナウンス。と
んだニッポンの将来を憂う話になってしま
いました。イカンイカン。世を憂えるのはオッ
サンのクセです。だいたい私たちの世代の日
本人って（昭和30年代生まれ）ほんとに幸
せな時代のめぐりあわせを生きてきたとい
う気がします。これからもお気楽に飲んで食
って楽しく暮らせる日できるだけ長く続けら
れるよう願うところです。

（なおご紹介した新幹線のアナウンスは広
島－三原間のこだま号で聞けるものですが、
違う区間やのぞみ号での再現性は未確認で
す。ご了承を。）

（おぞの りょうじ）